

令和5年度 産業標準化推進事業委託費
(戦略的国際標準化加速事業：我が国の国際標準化戦略を強化するための体制構築)
消費者への標準化に関する普及啓発活動
実施報告

(公社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
標準化事業実行委員会

令和5年度の経済産業省委託事業「産業標準化推進事業委託費（戦略的国際標準化加速事業：我が国の国際標準化戦略を強化するための体制構築）消費者への標準化に関する普及啓発活動」では、8回の標準化セミナーと3支部による標準化のタネ探し（消費者視点の標準化提案）等を実施した。以下、各普及啓発活動の成果について報告する。

I. 標準化セミナー

1. 標準化セミナー（弘前大学） 主催：東北支部
2. 標準化セミナー（活用講座） 主催：東日本支部
3. 標準化セミナー（淑徳大学） 主催：東日本支部
4. 標準化セミナー（中部大学） 主催：中部支部
5. 標準化セミナー（鳴門教育大学） 主催：西日本支部
6. 標準化セミナー（広島経済大学） 主催：中国支部
7. 標準化セミナー（佐賀） 主催：九州支部
8. 標準化セミナー（鹿児島） 主催：九州支部

II. 標準化のタネ探し（消費者視点の標準化提案）

1. 東北支部 階段の滑り防止
2. 西日本支部 古着回収システムの標準化
3. 中国支部 固定電話の防犯機能の標準化

1. 標準化セミナー

1. 標準化セミナー（弘前大学） 主催：東北支部

対 象： 弘前大学全学部（医学部医学科、医学部保健学科、人文社会科学部、理工学部、教育学部）2, 3, 4 年生

日 時： 2023 年 7 月 13 日（木）10:20 ~11:50

開催場所： 弘前大学総合教育棟講義室・対面方式

参加者： 23 名（男性：5 名、女性：18 名）

<プログラム>

(1)講義（30 分）

- ①サーキュラーエコノミーを知る
- ②標準化による社会価値の向上：課題の解決を考えましょう！
 - ・脆弱な消費者を対象とした標準化は必要
 - ・環境と経済成長の両立を目指す標準化を考える

(2)グループを分けてのワークショップ（60 分）

2. 標準化セミナー（活用講座） 主催：東日本支部

対 象： NACS 東日本支部会員

日 時： 2023 年 9 月 30 日（土）13 時 30 分～16 時

方 法： Zoom によるオンライン

参加者： 27 名（うちスタッフ 13 名）

<プログラム>

(1)開会挨拶

(2)標準化推進リーダーの役割（10 分）

(3)標準化セミナー

- ①講義「標準化セミナー」（30 分）
- ②グループワーク（35 分）6 名×4 グループ
- ③全体発表（25 分）

（休憩）

(4)ファシリテーションのコツ（25 分）

3. 標準化セミナー（淑徳大学） 主催：東日本支部

対 象： 淑徳大学 日野勝吾教授ゼミ 3 年生(4 年生 1 名含む)

日 時： 令和 5 年 12 月 4 日（月）13:00～14:30

実施方法： 淑徳大学(千葉県千葉市)・対面方式

参加者： 9 名(男性)

<プログラム>

(1)挨拶・NACSメンバー 自己紹介(10分)

(2)講義「標準化とは」(20分)

(3)グループワーク(30分)

テーマ：標準化のタネ探し「生活の中で気づいた標準化してほしいこと」
～身近な「不便なこと」「危険なこと」から考える～

- ワークショップ形式で3名×3グループ
- 事前課題として考えてきてもらった標準化のタネについて討議
- NACS 会員がファシリテーターとして参加

(4)グループ発表・質疑応答(20分)

グループワークの討議結果について、各グループより発表
その後、他グループより質疑応答

(5)講師まとめ・日野教授講評(10分)

4. 標準化セミナー（中部大学）主催：中部支部

対 象： 中部大学 経営情報学部 「経営環境」 講座 受講学生 95名

日 時：（前半）2023年12月13日（水）11:15～12:45（90分）

（後半）2023年12月20日（水）11:15～12:45（90分）

方 法： 愛知県春日井市 中部大学 経営情報学部 242A 教室

対面形式（講義：集合形式 ワークショップ：グループワーク）

参加者： 学生 95名 講師 3名（中部大学准教授・名古屋市主査・NACS担当）

NACSファシリテーター 6名・コメンテーター 7名 名古屋市1名 合計 112名

<プログラム>

◆前半

第1部…講義(30分)

「消費者と標準化」の関係、「今回の講義とセミナーの意義」等 講師: 伊藤佳世准教授

「SDGsとエシカル消費～目指す未来と消費生活～」講師: 名古屋市主査

「～標準化って何だろう?～あなたの知らない標準化の世界」 講師: NACS担当者

第2部…グループワーク（60分） <22グループに分かれて>

「消費者視点での標準化のタネ探し」グループワークについて

（グループワークの進め方説明） 解説: NACS担当者

グループワーク………標準化のタネ探しと課題解決策のグループミーティング

（ファシリテーターとしてNACS会員も参加）

◆後半

第1部…グループワーク（13分） <22グループに分かれて>

本日のセミナーについて・セミナーの説明(伊藤准教授・NACS)

第2部…グループ発表会（77分）

グループ代表発表……22のグループ代表が順次発表(各2分以内)

発表へのコメント……コメンテーター(NACS会員)がコメント

発表内容への評価……コメンテーターと受講者全員で評価

全体講評……伊藤准教授(中部大学)・名古屋市主査

(終了後別途に)発表評価結果集計・まとめなど…伊藤准教授・NACSスタッフ

5. 標準化セミナー(鳴門教育大学) 主催：西日本支部

対象：鳴門教育大学生及び院生(「消費生活論」履修者)

日時：令和5年11月8日(水)10:40~12:10

場所：鳴門教育大(徳島県鳴門市)・対面方式

参加者：9名(男性2名・女性7名)

<プログラム>

(1)情報提供(30分)

「子どもの安全と標準化のたね~もっと安全で便利なくらしについて考えよう！」

講師：NACS会員

(2)グループ討議(60分)

「標準化のたねを探してみよう」ワークショップ形式で3名×3グループ

6. 標準化セミナー(広島経済大学) 主催：中国支部

対象：広島経済大学経営学部経営学科3回生(岡本康昭教授ゼミ生)

日時：2023年10月19日(木)10:45~12:15

方法：広島経済大学アカデミック・コモンズ 明德館 対面形式

参加者：16名

<プログラム>

開会挨拶：NACS中国支部長

第1部「もっと安全で便利な暮らしについて考えよう！」

(副題)「標準化とは？標準化のタネを探そう！」

講師：NACS中国支部標準化実行委員

第2部 グループ討議「『標準化のタネ』を探そう」

それぞれが事前に考えていたタネを発表し、グループ討議した。

閉会挨拶：NACS中国支部会員 岡本康昭教授

7. 標準化セミナー(佐賀) 主催：九州支部

対象：一般(適格消費者団体佐賀消費者フォーラムによる講演会の一環として開催)

日時：2023年10月24日(火)10時~12時

方 法： 佐賀商工ビル 7 階佐賀市民活動プラザ大会議室

参加者： 3 4 名

<プログラム>

第 1 部 座学 「あなたの知らない標準化の世界」(45 分)

第 2 部 ワークショップ 「探してみよう『標準化のタネ』」(75 分)

グループワーク

発表

振り返り、総評

8. 標準化セミナー（鹿児島） 主催：九州支部

対 象： NACS 会員（九州支部）及び 消費者関連有資格者、一般市民

日 時： 2024 年 2 月 3 日（土）13:00～16:30

方 法： 鹿児島中央駅前 「勤労者交流センター」 7 階第 4 会議室 対面方式

参加者： 鹿児島分科会 3 名、宮崎分科会 3 名、福岡分科会 3 名、会員外 5 名 合計 14 名

<プログラム>

(1)開会挨拶、自己紹介（40 分）

(2)標準化説明（30 分）

(3)各タネの説明と深堀（50 分）

①エレベーターのボタン

②洗剤のボトル詰め替え

③メイクアップ商品

④新車のバックモニター

⑤ランドセルの防犯ブザー取付位置

(4)フィールドワーク（近くのスーパーで商品等を確認）（45 分）

①エレベーターのボタン

②洗剤のボトル詰め替え

③メイクアップ商品

⑤ランドセルの防犯ブザー取付位置

(5)発表（40 分）

(6)閉会挨拶（5 分）

II. 標準化のタネ探し（消費者視点の標準化提案）

1. 東北支部

テーマ：階段の滑り防止

<テーマ選定の経緯>

- ・階段における事故は、現場で個別に対応されるか、または個人で通院治療がなされ、顕在化することはあまり多く無い。
- ・東北支部では、実際に階段で滑り危険な経験を経たメンバーがおり、他にも多くのメンバーが階段で滑りそうな体験をして、危険を感じていた。
- ・階段で滑って転落すれば重篤な事故に繋がる危険性が高い。
- ・東北地域の屋外階段は、降雨時以外にも冬場は、雪や凍結で滑りやすい。
- ・主に屋外階段について、調査項目をまとめることで、階段の滑り防止の設計の標準化の必要性を提案する。

<調査概要>

- (1)体験談のヒアリング：階段で滑り、転落したメンバー
- (2)階段の設計基準に関する建築基準法条例等の調査
 - ①建築基準法・国土交通省の建築設計標準、及び東京都条例より構造・寸法・視認性等の設計基準
 - ②日本産業規格の床のすべりに関する規格（JIS A1454：2016 高分子系張り床材試験方法）
 - ③東京工業大学 小野英哲教授らによる 1980 年代からの日本建築学会論文集より『階段の材質、構造や着用している履物の種類及び利用者（性別、年代）に対する「階段の滑り評価」』
- (3)現地調査：階段の滑りをつまづき易さ、視認性と形状・構造

<結論>

階段の滑り事故に関する公表発生件数や事故情報の調査、実際に設置された階段の形状・構造の調査や階段の滑りに対する設計基準の調査から、構造（材質・溝・凸凹）と視認性（色付けによる明度・色相）の視点で階段設計の標準化提案を取りまとめた。

<理由>

- ・段鼻材は、生産メーカー毎にさまざまな材質があり、滑りを防ぐ溝のパターンも独自に施されていた。
- ・一方で、階段に向かい正面からまっすぐ降りる事を想定した溝のパターンもあり、仮に斜めや横から段鼻材を踏んだ場合、滑りを防ぐための溝の仕様になっていない段鼻材もある。
- ・階段で滑ると重篤な事故に繋がる危険性が高く、また東北地方に限らず、全国各地の屋外階段は、冬期間雪や凍結ですべり易い。
- ・特に、足腰・視力等の身体の衰えにより、滑りや転倒事故に遭いやすい高齢者を考えると、滑りに

くい階段の設計標準化は、重篤な転落事故を含む事故防止の効果は大きい。

- ・屋内においても梅雨時の結露等で階段は滑りやすく危険である。

<今後の方針>

- ・日本建築学会の学会誌等で公表されている階段や床の滑りに関する研究論文の内容を深掘りし、一般消費者にも分かりやすい内容にまとめ、広報活動に活かす。
- ・標準化事業の支部会員への浸透を図り裾野を広げるために、成果発表会を開催する。

2. 西日本支部

テーマ：古着回収システムの標準化

<テーマ選定の経緯>

古着の回収ルートは、アパレル企業などによる店頭回収及び、自治体による資源回収（自治体による行政回収・自治会などによる集団回収）が主流である。前年度に実施した店頭回収調査を行う中で、自治体における回収の現状と課題について調査する必要性を感じた。そして、古着回収ルートの全体像を把握することで、消費者視点からの標準化のタネ探しが可能になると考えた。また、NACSとしても、「サステナブルファッションの実現」という社会的な課題に取り組む価値があると判断した。

<調査概要>

今年度は、古着回収システムの標準化を目標に、公開講座、現地見学会、行政及び事業者のヒアリング、自治体 HP の調査を実施した。

(1)事業者へのヒアリング：株式会社チクマ（大阪市、環境大臣認定「広域認定制度」全国第1号）

(2)現地見学会の実施；2023年9月25日

①北九州市の「古着回収から製品利用まで一貫したリサイクルシステム」（2014年構築）

②事業者交流会：北九州エコタウンセンター

講演：株式会社チクマ 中村尚弘氏「SDGsの取り組みとリサイクル事業」

③株式会社エヌ・シー・エス（NCS：チクマの関連会社）工場見学

市内の回収ボックスなどで回収した古着を、NCS工場再生繊維材料に加工

（これが、自動車用防音材となる）

(3)公開講座の実施；2023年11月2日

会場：大阪産業創造館・ハイブリッド方式

「循環型ファッションの実現を目指して
～繊維・衣服のライフサイクルを考える～」

講師：帝人株式会社グローバル管理管掌補佐

株式会社 RePEaT（リピート）代表取締役社長 宮坂信義氏

(4)自治体ホームページでの開示情報の調査（メンバー居住地近隣の15自治体）

- ①古着回収実施有無
- ②回収方法
- ③回収衣類の条件
- ④衣類の回収量や素材割合の公表
- ⑤回収された古着のゆくえの公表と内容
- ⑥集団回収の実施と報奨金

(5)行政へのヒアリング

- ①北九州市（環境局 環境社会推進課 資源化推進係） 2023年9月25日
- ②東京都江東区（環境清掃部 清掃リサイクル課） 2023年7月12日
- ③神戸市（環境局 業務課 原料資源課） 2023年12月19日

<結論>

- ・サステナブルファッションの実現には、古着等の故衣料品の回収～分別～リユース・リサイクルまでの最適化された循環システムの規格化が必要である。
- ・調和のとれた繊維製品の循環システムが構築されることで、衣料品の廃棄量削減や環境負荷の低減が可能となる。
- ・事業者は、繊維製品における資源循環ビジネスへの転換によって、国内のみならず海外市場においても産業競争力を維持・強化していくことができる。さらに、新たな産業・雇用の創出に結び付けることも可能となる。

<今後の方針>

- ・古着の回収・選別を行う故繊維業者について調査・研究
- ・古着回収スキームにおける標準化のタネについてのまとめ

3. 中国支部

テーマ：固定電話の防犯機能の標準化

<テーマ選定の経緯>

高齢者を中心に自宅の固定電話への犯人からの電話を接点とした特殊詐欺の被害が増加傾向にある中、昨年度より引き続き「固定電話の防犯機能の標準化」をテーマに選定し、特殊詐欺被害を減らし安心して安全な社会を実現したいと考えた。

<調査概要>

- (1) 「固定電話の防犯機能の標準化について」のアンケート調査
- (2) 外付け防犯機能装置の使用調査

- (3) 業界関係者へのヒアリング
- (4) 警察へのヒアリング
- (5) 公益財団法人全国防犯協会連合会へのヒアリング

<結論>

防犯機能付き固定電話の機能として「特殊詐欺の犯人グループからの電話に出ないようにするための機能」を標準装備した固定電話を普及させ、既に機能のある電話機を有効活用していくことが重要である。また、ベストチョイスとして、「電話帳に番号登録をしないと着信音は鳴らない」機能付き固定電話をお勧めしたい。これを実現させるには、個人自宅所有の固定電話について法改正を含め種々の規格化が求められる。

①制度面

- ・特殊詐欺対策を義務付ける電気通信事業法の改正
- ・通信事業者および家電業者に対する補助金等国・行政の援助

②ソフト面

- ・ナンバー・ディスプレイ/ナンバー・リクエストの基本サービスへの組み入れ
- ・通信事業者・家電業者・行政等による電話帳登録等支援サービス

③ハード面

以下の機能を標準装備した安価な電話機の提供

- ・電話番号を表示するディスプレイ機能
- ・電話番号の電話帳への簡単登録機能
- ・電話帳未登録番号からの電話は着信音を鳴らさない機能

上記機能のある電話機の有効活用

<今後の方針>

- ・防犯機能付き固定電話の標準化に向け、行政・関連業界に提言する活動を行う。

以上